

佐々町
子どもの生活状況調査
報告書（概要版）

令和6年12月

佐々町

目次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の実施要領	3
3. 調査結果利用上の注意.....	3
第2章 調査結果.....	5
小学生・中学生	7
保護者.....	20

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、佐々町で支援を要する方や必要な支援を把握し、子育て世帯等への施策に役立てることを目的としています。

2. 調査の実施要領

調査時期	令和6年10月28日（月）～11月8日（金）
調査対象者	佐々町在住の 小学5～6年生・中学2年生の子ども及び保護者
調査方法	学校配布・回収

対象者	配布数	有効回収数	有効回答率
小学5～6年生	341件	311件	91.2%
中学2年生	171件	114件	66.7%
保護者	512件	403件	78.7%

3. 調査結果利用上の注意

- ・各設問のnは、回答者数を表しています。
- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100%を超える場合があります。
- ・回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記しています。
- ・数表・図表は、スペースの都合上、文言等を省略している場合があります。

第2章 調査結果

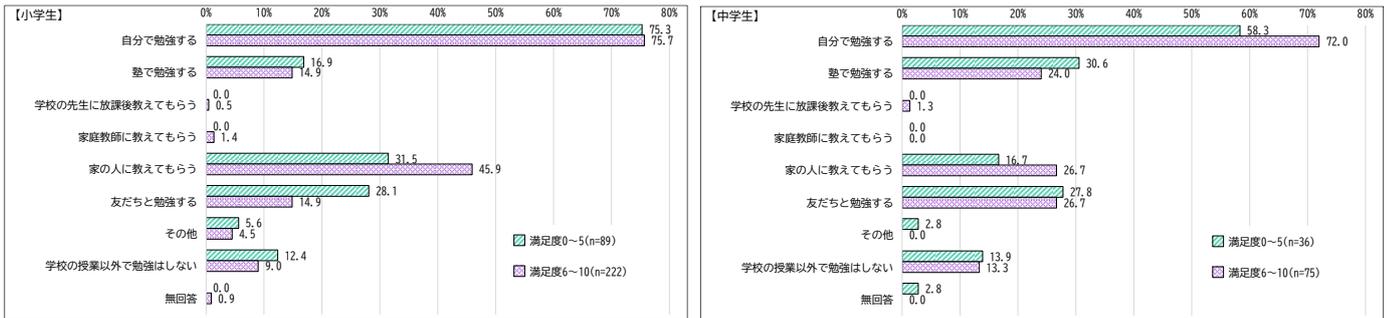
小学生・中学生

学校生活の状況

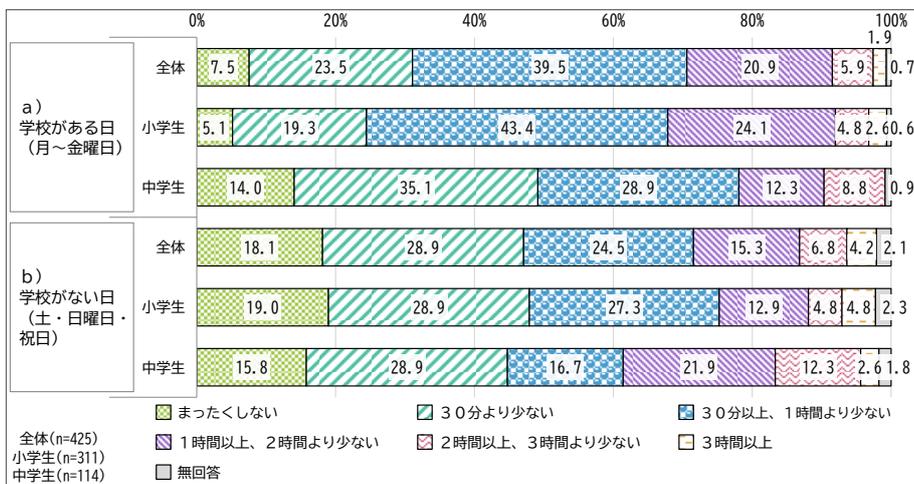
①学習の状況及び理解度

ふだん学校の授業以外の勉強については、小・中学生ともに「自分で勉強する」が最も高く、次いで、小学生では「家の人に教えてもらう」、中学生では「友だちと勉強する」と回答しており、生活満足度が高いほど、小学生は「家の人に教えてもらう」、中学生は「自分で勉強する」割合が高くなっています。

【勉強方法×生活満足度】

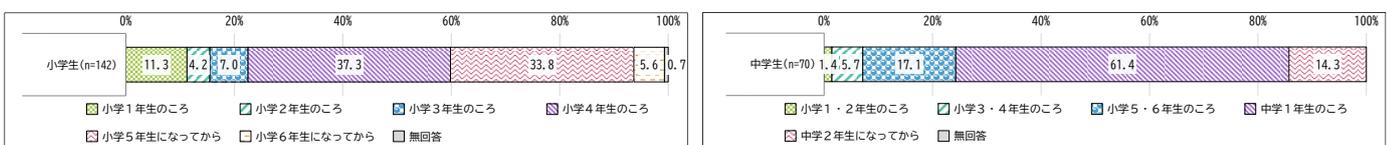


学校の授業以外での1日あたりの勉強時間については、学校がある・ないに関わらず、小・中学生ともに『1時間未満』が6割を超えています。中学生では平日と比べて休日の勉強時間が長くなっています。



学校の授業について、小学生では『わかる』が5割を超えています。中学生では6割が『わからない』と回答しています。また、授業がわからなくなった時期について、小学生では「小学4～5年生のころ」が7割台、中学生では「中学1年生のころ」が6割台となっています。

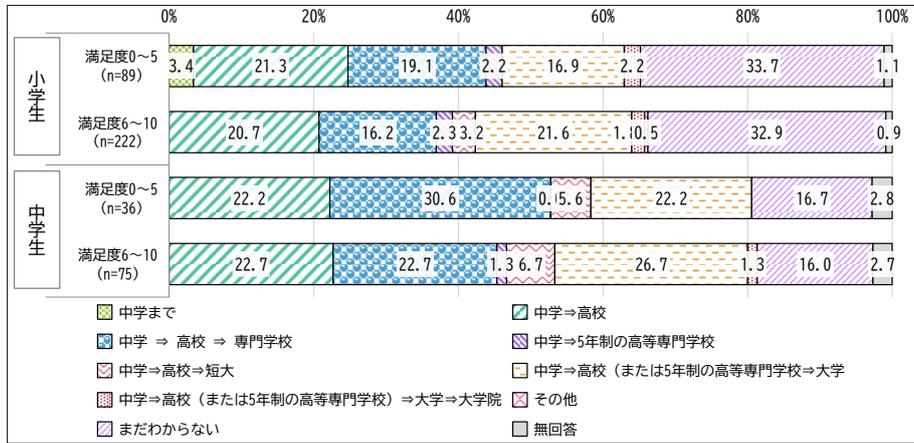
【授業がわからなくなった時期】



②今後の進路について

将来の進路について、小学生では「まだわからない」が最も高く、中学生では「高校」「専門学校」「大学」が2割台となっており、中学生の方が自身の将来を考え、具体的な進路を検討している様子がうかがえます。また、中学生では生活満足度が高いほど「大学」への進学希望の割合が高くなっています。

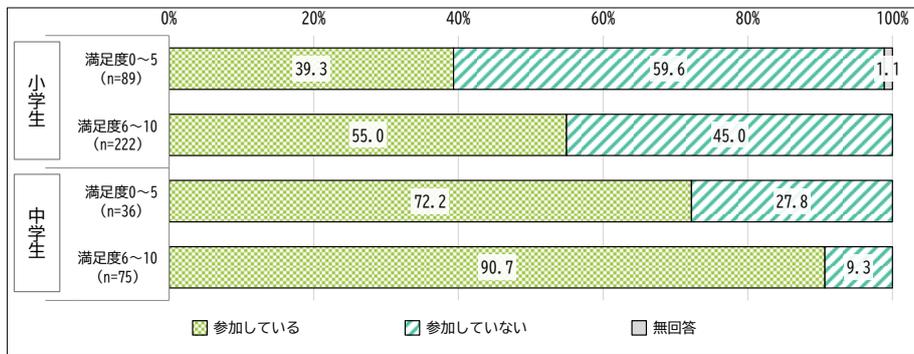
【進路希望×生活満足度】



③地域のスポーツクラブや学校の部活動への加入、塾や習い事について

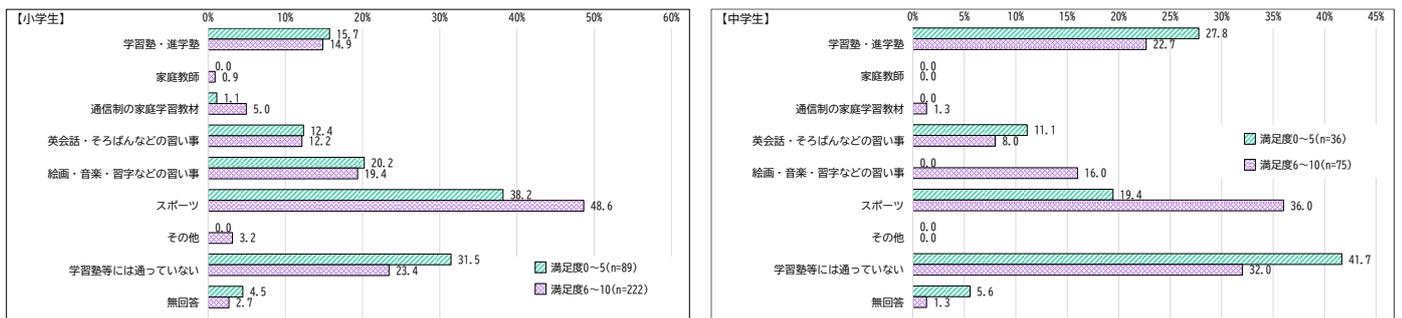
地域のスポーツクラブや学校の部活動への加入率は、小学生で5割、中学生で8割となっており、生活満足度が高いほど参加率が高くなっています。また、参加していない理由については、小・中学生ともに「参加したくないから」が最も高く、3割を超えています。

【部活等への参加可否×生活満足度】

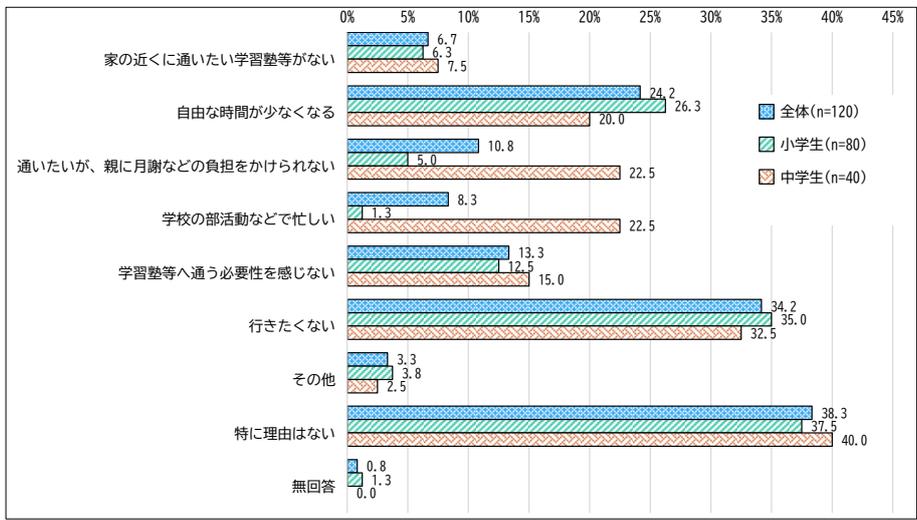


塾や習い事について、小学生では「スポーツ」、中学生では「学習塾等には通っていない」が最も高くなっており、生活満足度が低いほど「スポーツ」の習い事をしている割合が低くなっています。

【塾・習い事等×生活満足度】

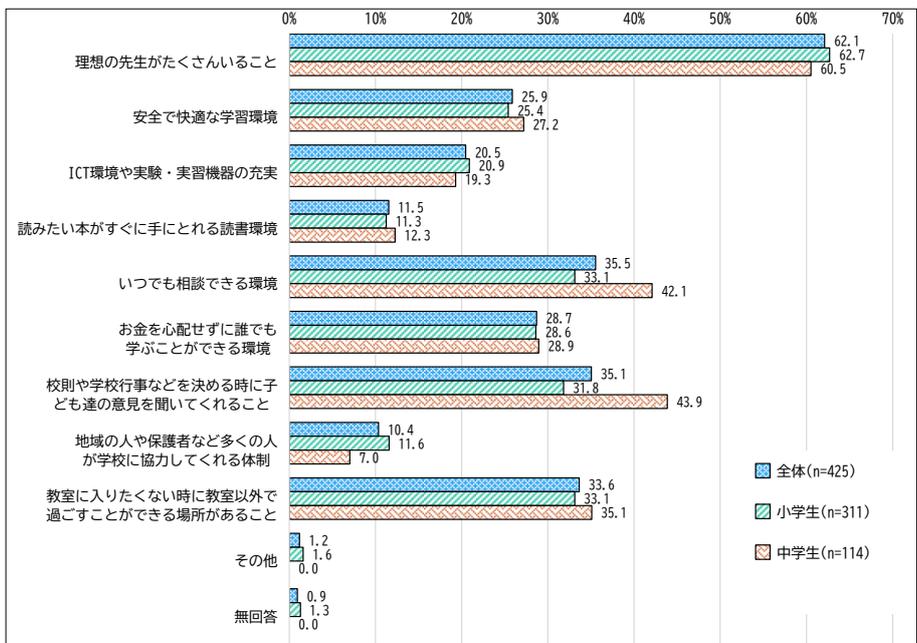


また、塾や習い事等に通っていない理由については、小・中学生ともに4割前後が「特に理由はない」と回答しているものの、中学生は小学生と比べて「通いたいが、親に月謝などの負担をかけられない」「学校の部活動などで忙しい」が15ポイント以上高くなっており、部活動での多忙に加え、保護者の経済的負担などを考え、子ども自身が「遠慮」している傾向がうかがえます。



④より良い学校・教育に必要なこと

より良い学校・教育のために必要なことについては、小・中学生ともに「理想の先生がたくさんいること」が最も高く、次いで、小学生では「いつでも相談できる環境」「教室に入りたくない時に教室以外で過ごすことができる場所があること」、中学生では「校則や学校行事などを決める時に子ども達の意見を聞いてくれること」となっています。子ども達が大人になることに期待を持つことができるよう、保護者以外の身近な存在である先生方の資質の向上に加え、安心して通える環境、子ども達の意見に耳を傾ける体制が求められています。



ふだんの生活の状況

① 食事の摂取状況

食事については、小・中学生ともに、朝食及び夏休みや冬休み期間などの昼食は8割、夕食については9割が「毎日食べる（週7日）」と回答しています。

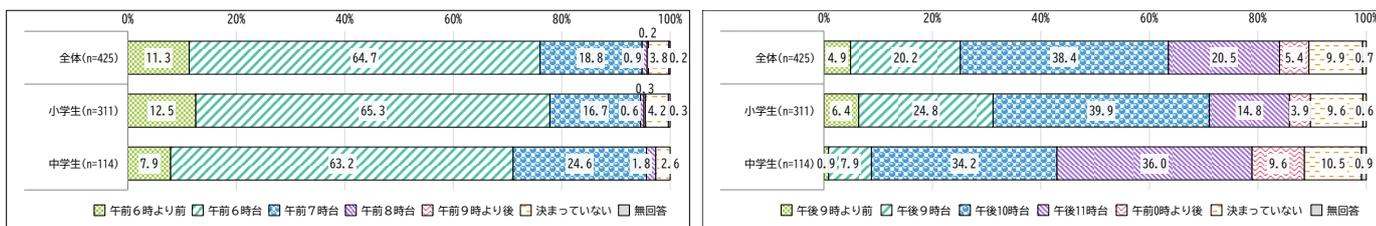
② 睡眠時間

起床時間については、小・中学生ともに6割が「午前6時台」と回答しています。

就寝時間について、小学生は「午後10時台」、中学生は「午後11時台」が最も高くなっており、小学生は7割が『午後10時台まで』、中学生は5割以上が『午後11時台以降』に就寝していると回答しています。

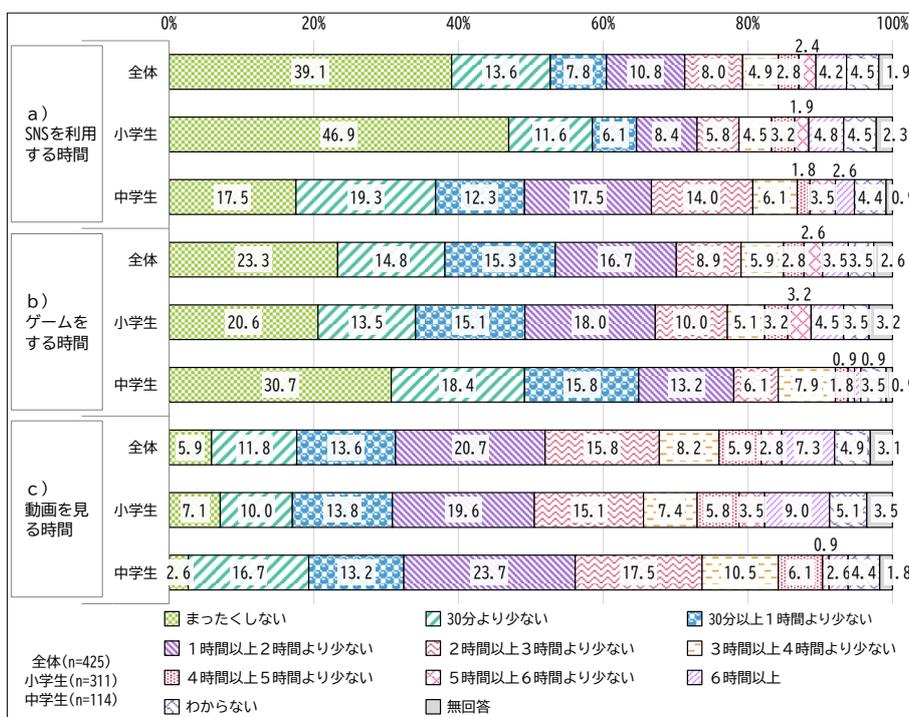
【起床時間】

【就寝時間】



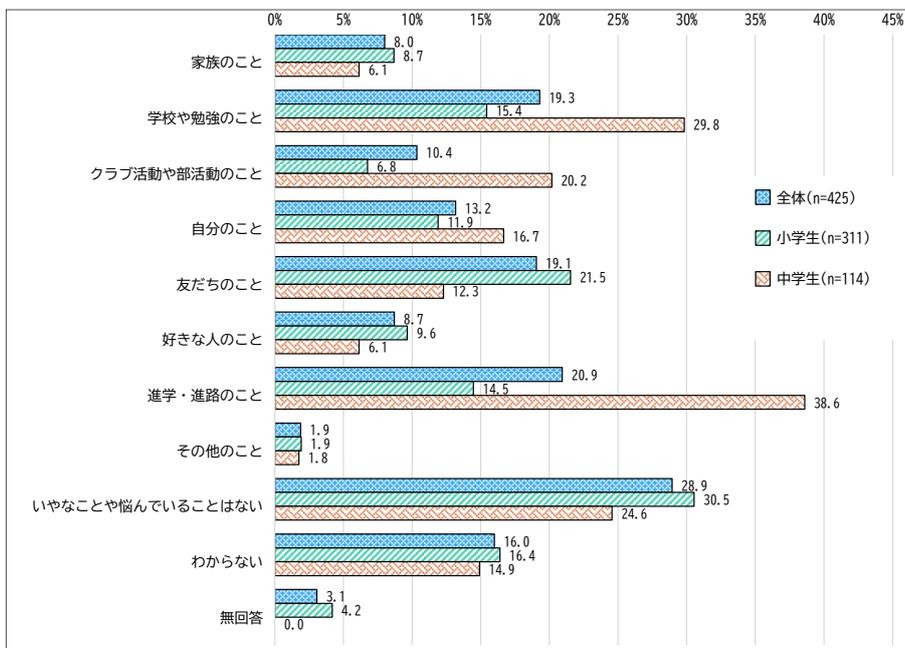
③ SNS等の利用状況

平日のインターネットの利用状況については、『1時間以上』の割合が最も高いのは、「動画を見る時間」となっており、小・中学生ともに6割を超えています。また、中学生は小学生と比べて「SNSを利用する時間」が長く、「ゲームをする時間」が短い傾向がみられます。

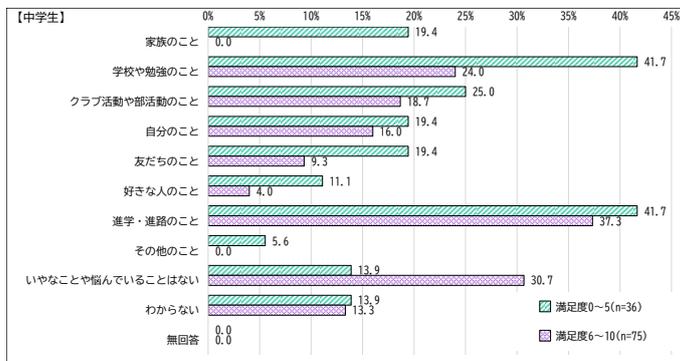
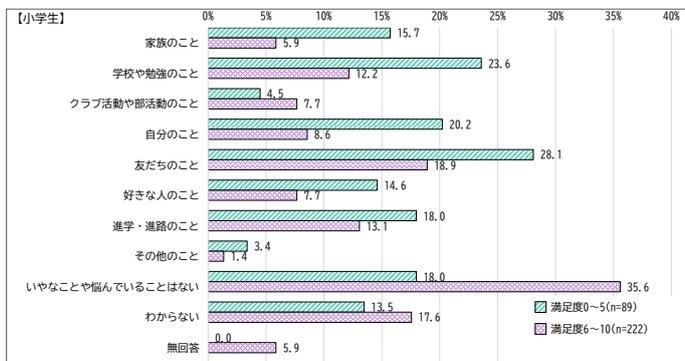


困っていることや悩みについて

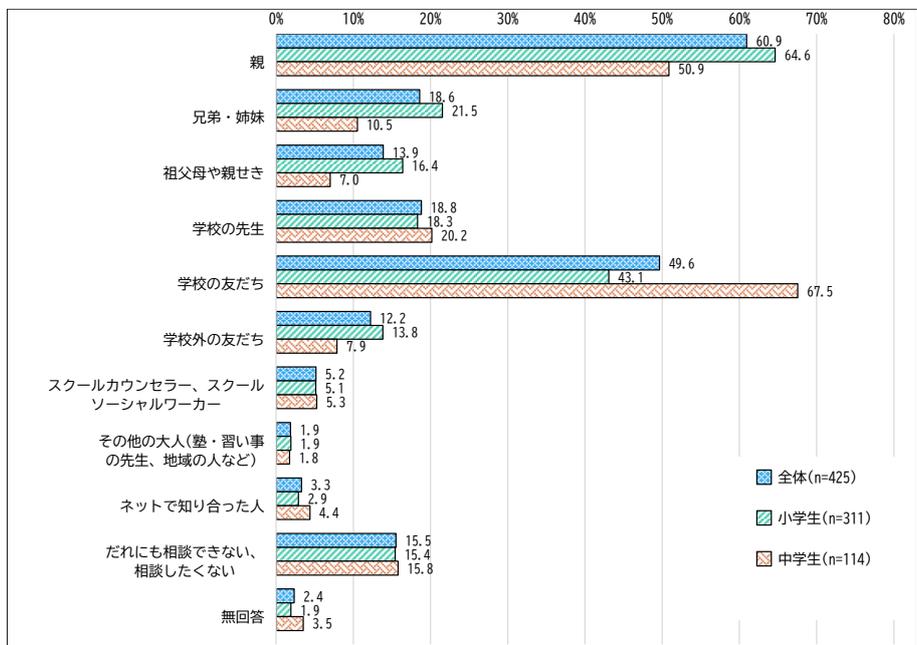
いやなことや悩み等について（「悩んでいることはない」を除く）、小学生では「友だちのこと」が最も高く、中学生では約4割が「進学・進路のこと」、約3割が「学校や勉強のこと」と回答しています。また、中学生は小学生と比べて、勉強や進学・進路、部活動に関する悩みの割合が高くなっており、生活満足度が低いほど悩みが多くなっていることがうかがえます。



【いやなことや悩んでいること×生活満足度】



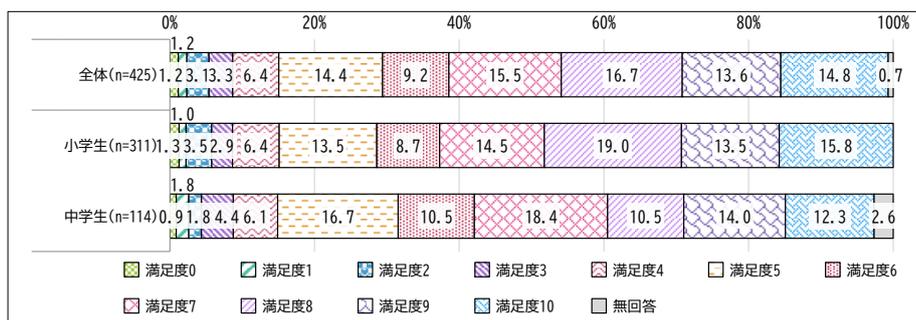
困りごとや悩みごとを相談できる相手については、小・中学生ともに「親」「学校の友だち」が高くなっていますが、「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「その他の大人」は1割を切っており、悩み事については家族や親戚及び学校の先生や友人等、身近な相手に相談している様子がうかがえます。また、1割が「だれにも相談できない、相談したくない」と回答しており、自由記述でも相談支援を求める意見があることから、子ども達のニーズに合った、安全で気軽に相談できる支援体制（SNS 等での相談含む）の整備が必要です。



生活や自身の状況、自宅や友人の家以外の場所の利用状況について

①生活や自身の状況

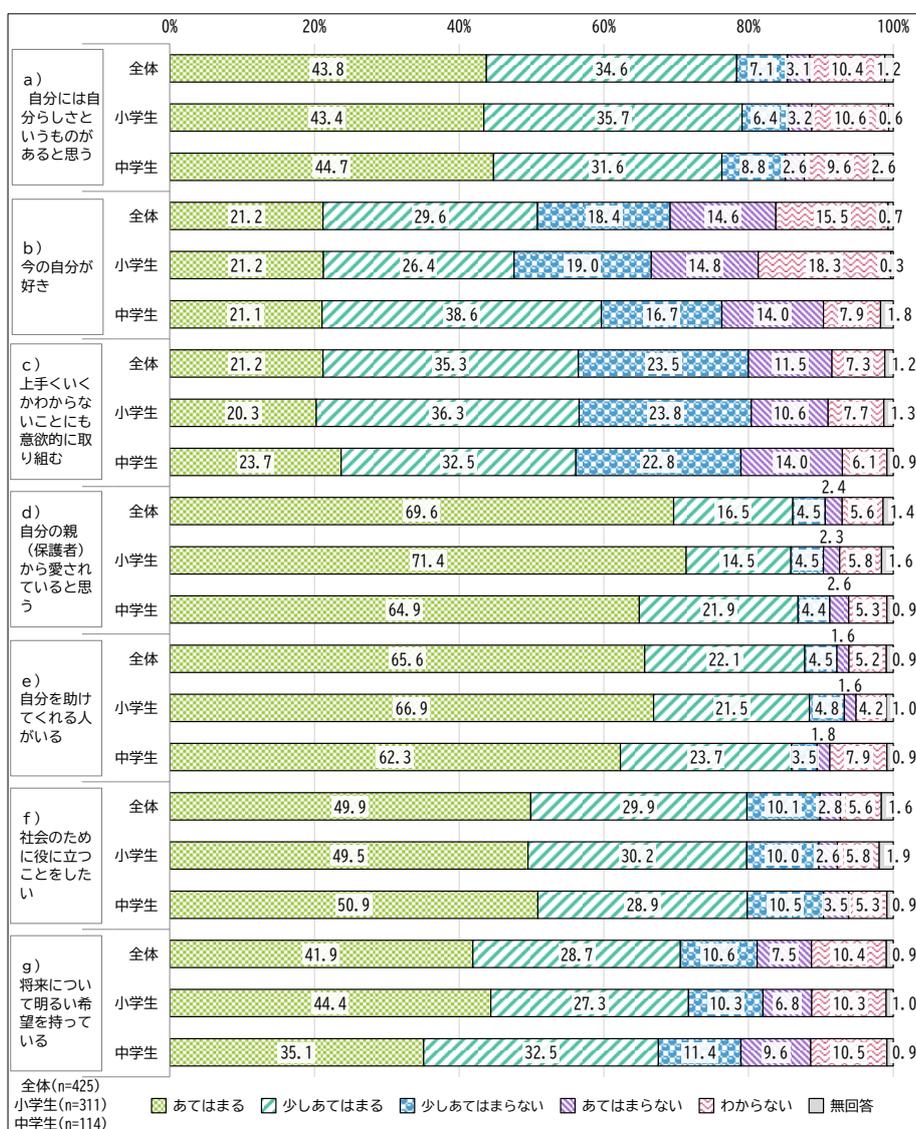
ふだんの生活については、小・中学生ともに約3割が『満足度が高い（満足度9＋満足度10）』と回答しています。



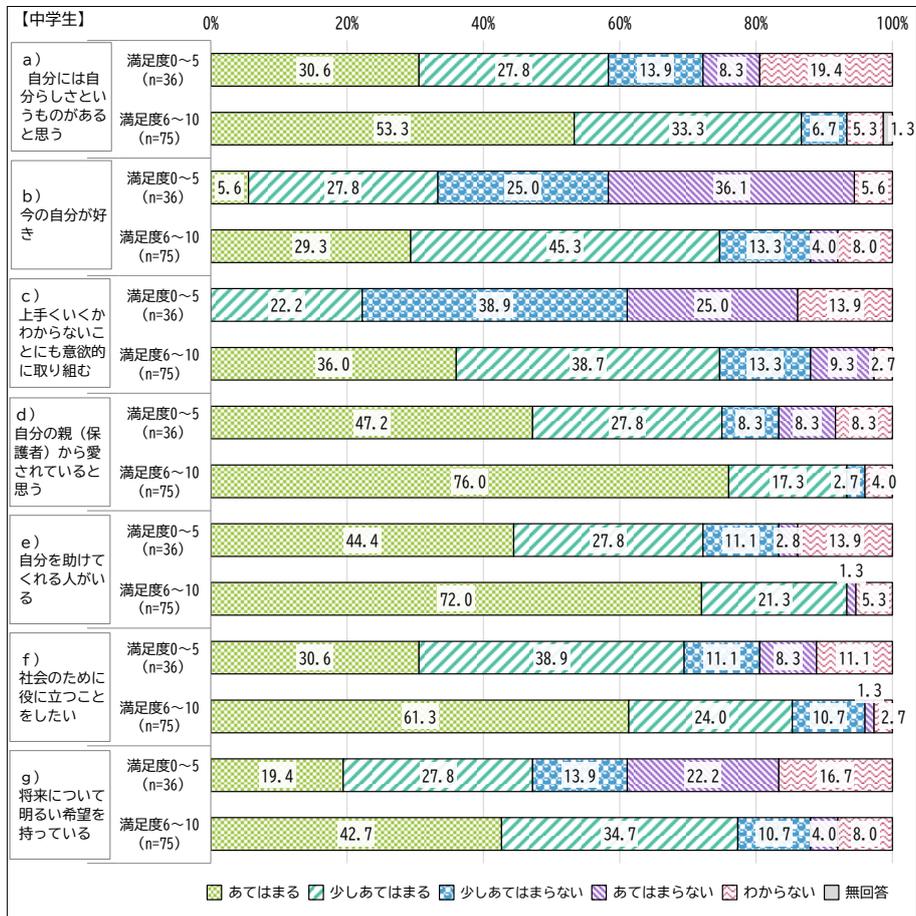
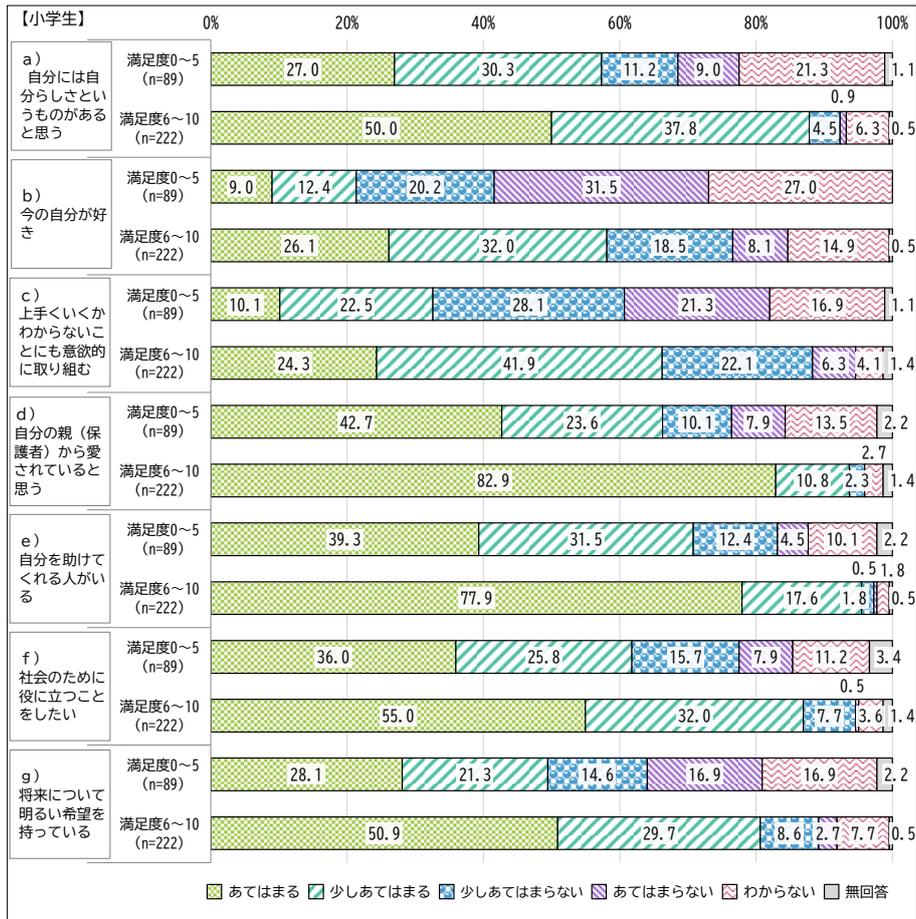
自分自身に対する認識（自己認識）については、小・中学生ともに「自分の親（保護者）から愛されていると思う」「自分を助けてくれる人がいる」という認識が高くなっています。また、生活満足度が低いほど「今の自分が好き」「上手くいくかわからないことにも意欲的に取り組む」では『あてはまらない』と回答している割合が高くなっています。

小・中学生ともに親子関係を肯定的に捉え、自己肯定感及び自己有用等が高くなっていますが、生活満足度が低いほど自己肯定感やチャレンジ精神が低くなっていることがわかります。子どもたちが自身をポジティブに捉え、自信を持って行動するためにも、これらの感覚を育てていくためのサポートが必要です。

ここ半年の自身の状況については、小・中学生ともに9割前後が「私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える」「私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる」「私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている」と回答しており、自己の親切さや他者への配慮ができており、良好な友人関係が築けていると認識していることがうかがえます。



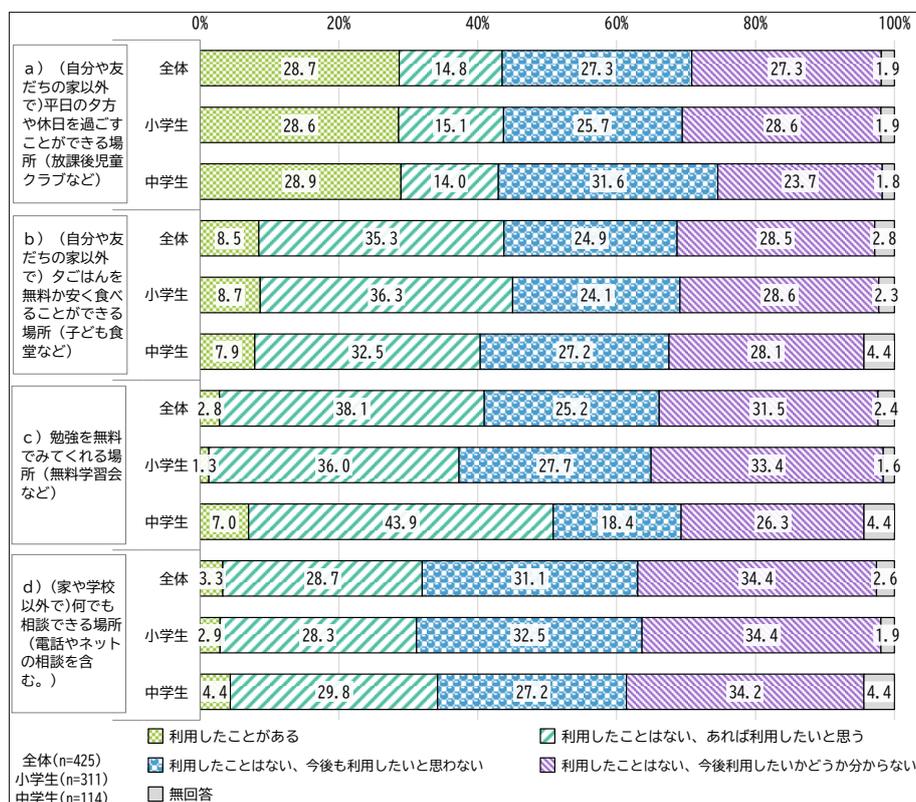
【自身のことについて×生活満足度】



②自分や友人の家以外の場所の利用状況

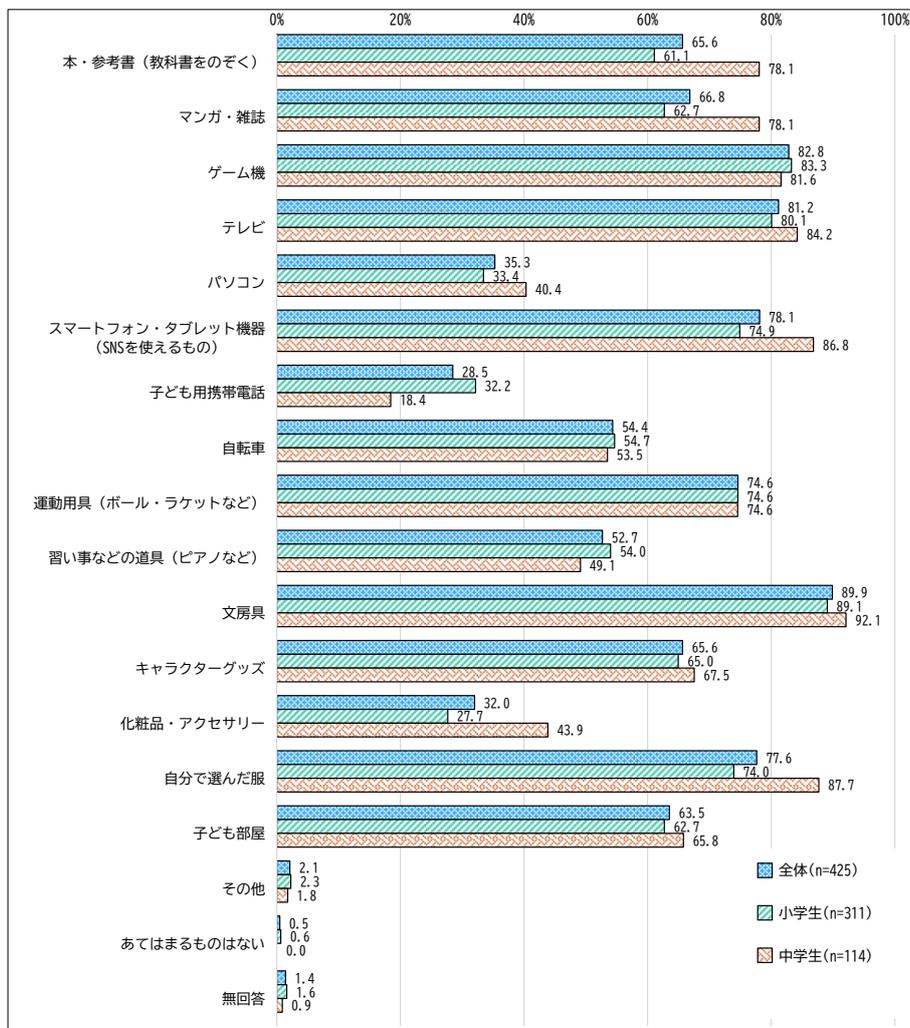
利用経験が最も高いのは、小・中学生ともに約3割が「(自分や友だちの家以外で)平日の夕方や休日を過ごすことができる場所(放課後児童クラブなど)」と回答しています。

今後の利用意向が最も高いのは、小学生では「(自分や友だちの家以外で)夕ごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など)」、中学生では「勉強を無料でみてくれる場所(無料学習会など)」となっています。自由記述でも学習支援や学習できる環境を求める声が多くあげられており、安心して勉強できる環境整備や支援等が求められています。

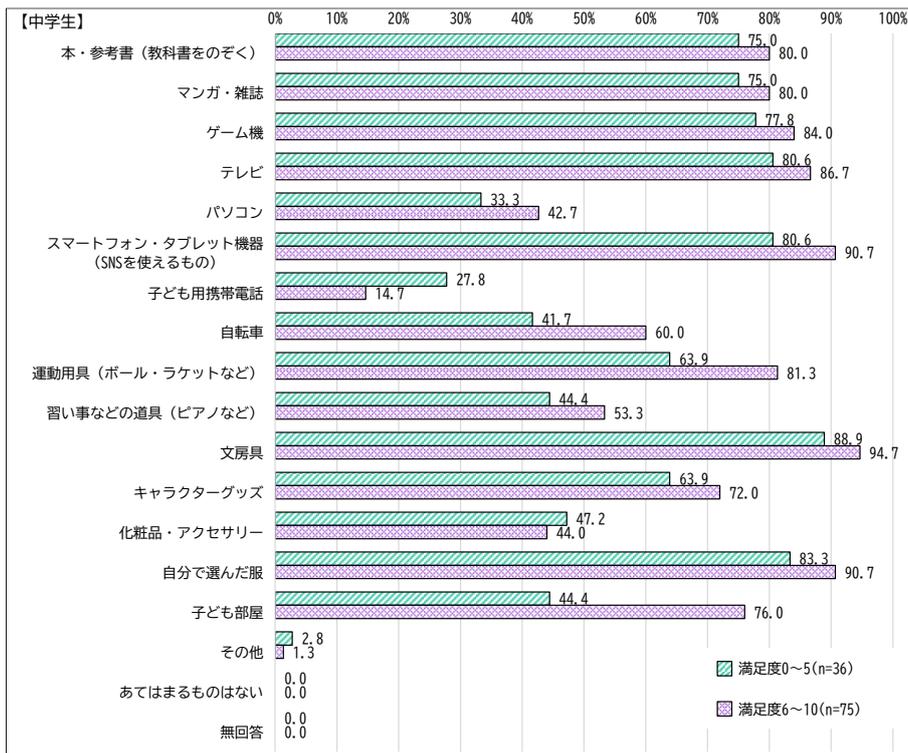
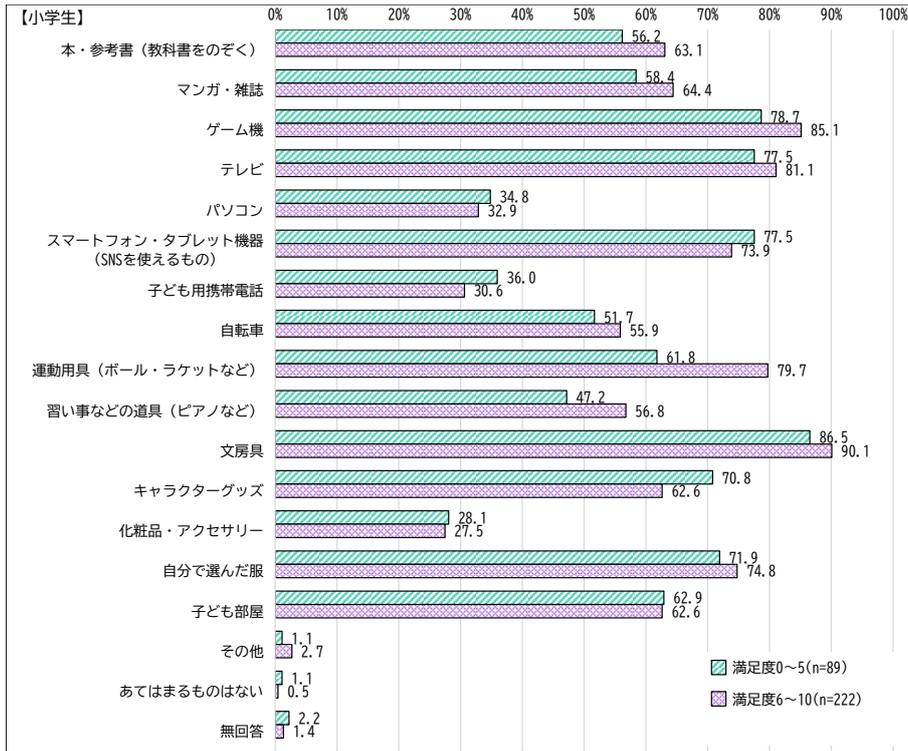


持ち物やおこづかいについて

持ち物については、小・中学生ともに、「ゲーム機」「テレビ」「文房具」が8割を超えており、中学生では「スマートフォン・タブレット機器（SNS を使えるもの）」「自分で選んだ服」も8割を超えています。また、生活満足度が高いほど、小学生では「運動用具（ボール・ラケットなど）」、中学生では「スマートフォン・タブレット機器（SNS を使えるもの）」「自転車」「運動用具（ボール・ラケットなど）」「子ども部屋」が高くなっています。



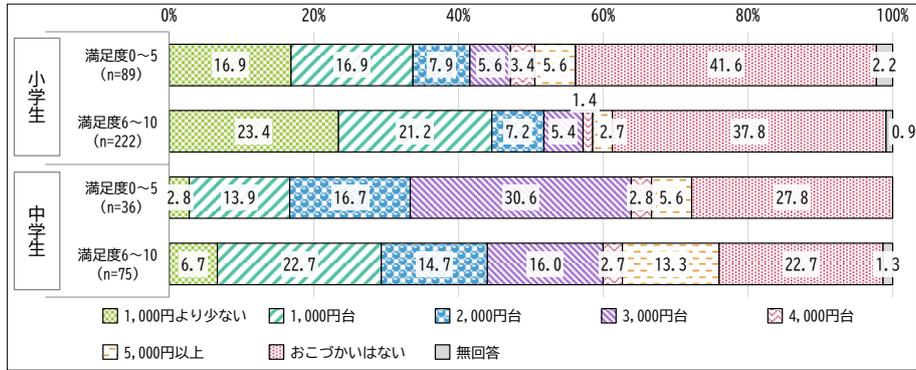
【所持・使用できるもの×生活満足度】



毎月のおこづかいについて（「おこづかいはない」を除く）、小学生は「1,000円台以下」、中学生は「1,000円台」「3,000円台」の割合が高くなっています。また、中学生では生活満足度が低いほど「3,000円台」が高くなっています。

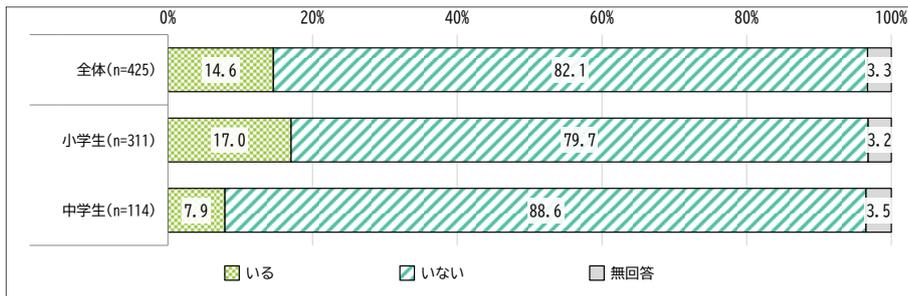
おこづかいの用途としては、小学生では「貯金」、中学生では「友だちとの遊び」が最も高くなっています。

【毎月のおこづかい×生活満足度】

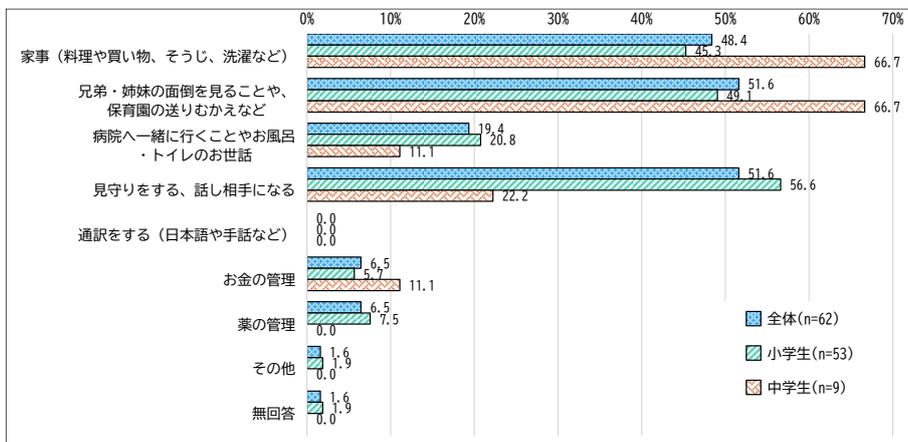


家族について

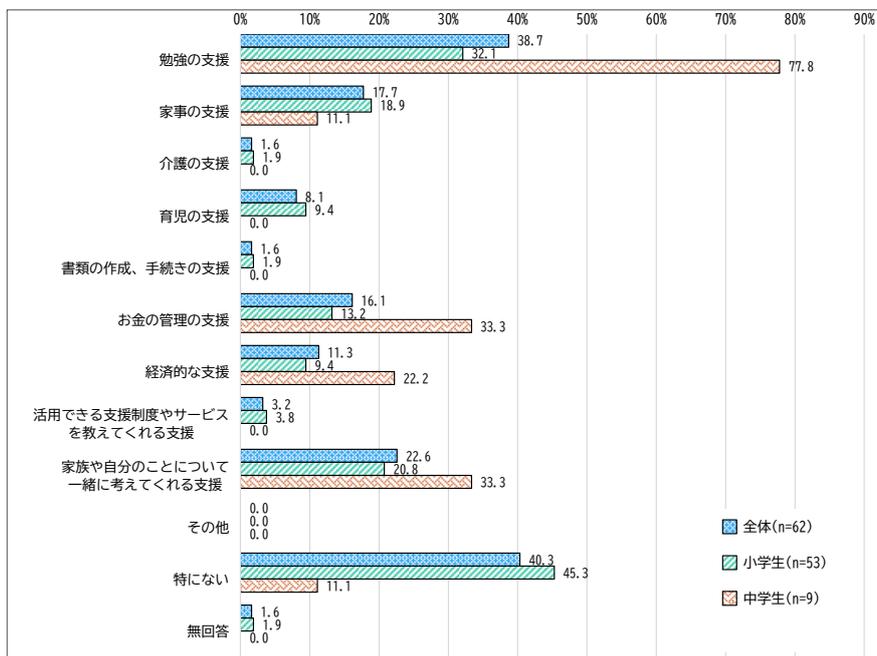
世話をしている家族がいるか尋ねたところ、小・中学生ともに約8割が「いない」と回答していますが、小学生では約2割が「いる」と回答しています。



世話をしている家族については、小学生では7割が「兄弟」と回答しており、お世話の内容は、5割前後が「家事（料理や買い物、そうじ、洗濯など）」「兄弟・姉妹の面倒を見ることや、保育園の送りむかえなど」「見守りをする、話し相手になる」と回答しています。



今欲しい支援について、小学生では「特にない」が最も高いものの、3割が「勉強の支援」、2割が「家族や自分のことについて一緒に考えてくれる支援」と回答していることから、子どもだけではなく保護者も含めたサポート、気軽に相談できる相談体制、関係機関と連携した包括的な支援体制の整備等が必要です。

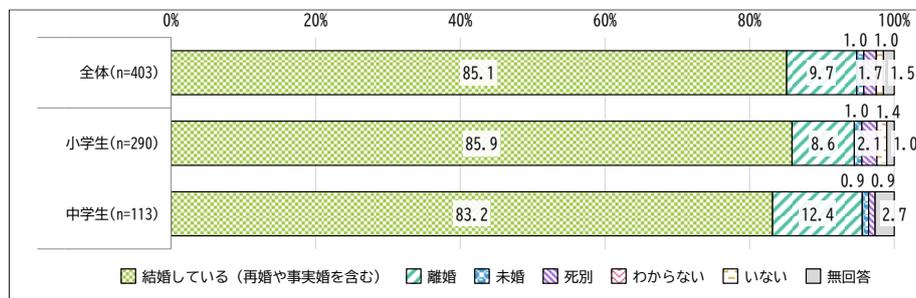


世帯の状況

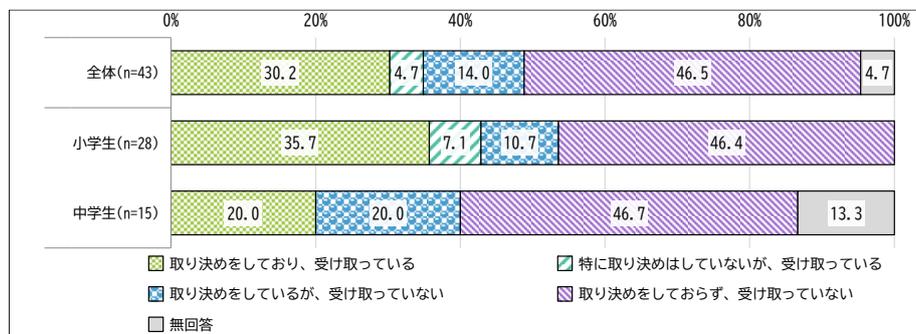
回答者については、小・中学生ともに8割以上が「母親」と回答しており、本調査は主に「母親」の視点からみた子どもや家庭の生活状況に関する意識や実態として考察することが妥当だと考えられます。

家族構成人数については、小・中学生ともに3割前後が「4人」「5人」と回答しており、家族構成については「母親・父親」は8～9割台、「兄弟・姉妹」は5割前後が「いる」と回答しています。

保護者の婚姻状況については、小・中学生ともに「結婚している」が8割台、「離婚」が1割前後となっています。離婚後の養育費の取り決めについては、小・中学生ともに約5割が「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答していますが、小学生では中学生と比べて『受け取っている』が20ポイント以上高くなっています。



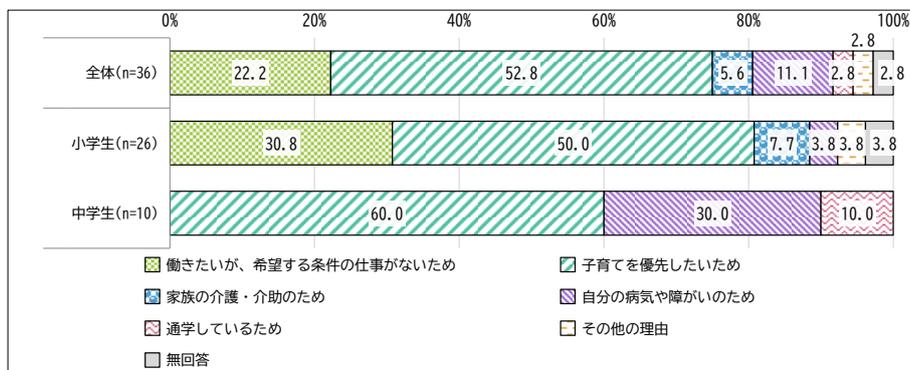
【養育費の取り決め】



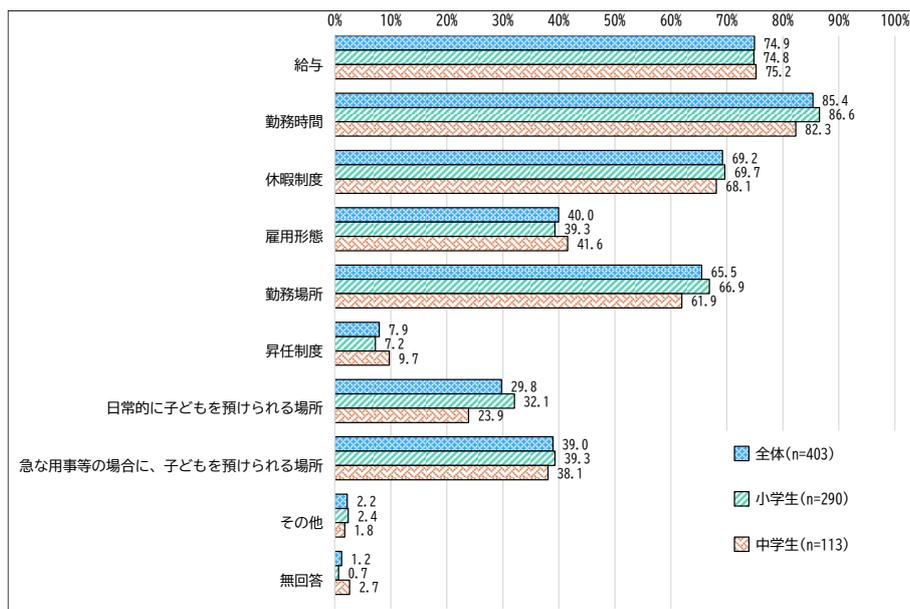
保護者の最終学歴については、母親・父親ともにいずれも「高校まで」が最も高くなっています。

保護者の就労状況については、母親では小・中学生ともに「パート等」が最も高く、父親では約8割が「正社員等」と回答しており、働いていない理由について、母親では小・中学生ともに「子育てを優先したいため」が最も高く、小学生では「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」、中学生では「自分の病気や障がいのため」が3割となっています。

【母親：働いていない理由】



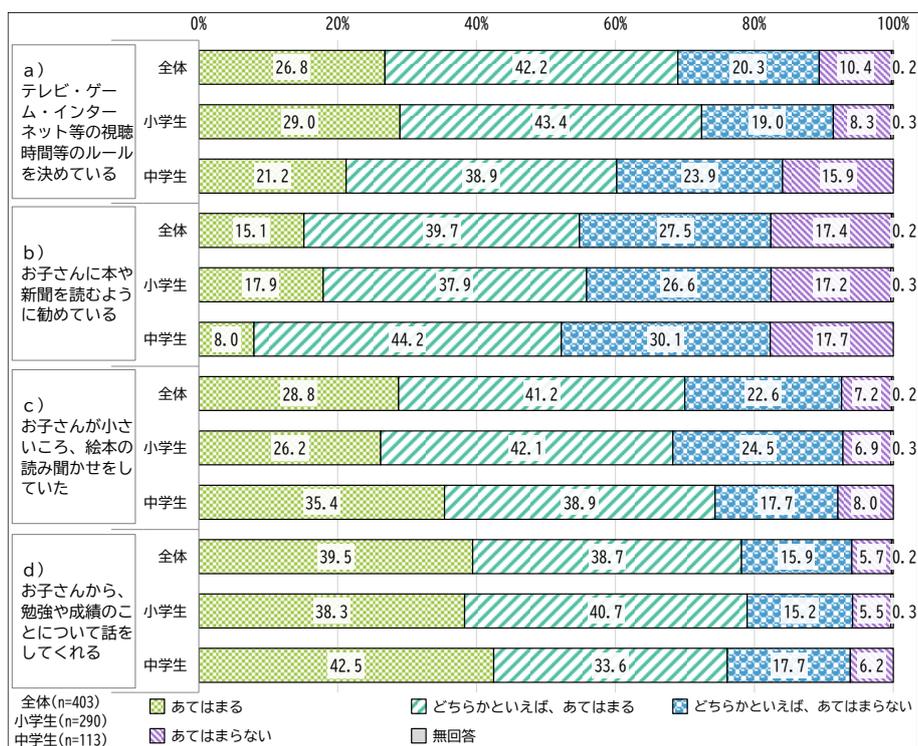
子育てと仕事を両立するために重要なこととして、小・中学生ともに「給与」「勤務時間」「休暇制度」「勤務場所」が6割を超えています。また、4割前後が「雇用形態」「急な用事等の場合に、子どもを預けられる場所」と回答しており、小学生では「日常的に子どもを預けられる場所」も3割を超えています。



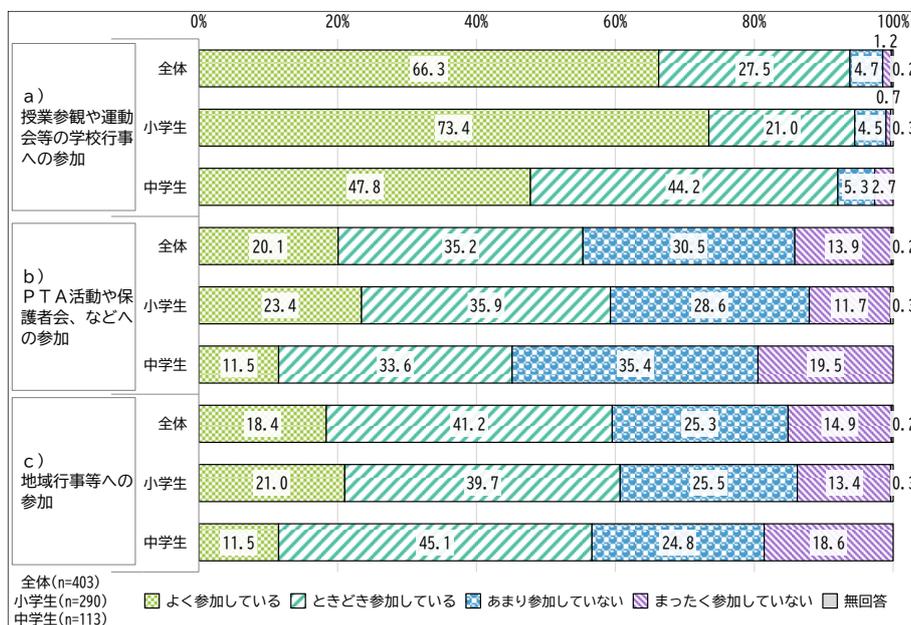
仕事をしながら安心して子育てができ、ワーク・ライフ・バランス実現のためにも、雇用環境の整備や職場の理解や協力体制を整える、固定的な役割分担意識の解消、地域や関係機関と連携した支援体制の整備等、子育て世帯のニーズに対応できるような支援等が必要です。

お子さんとの関りについて

テレビ・ゲーム・インターネットなどの視聴時間等のルール、新聞や読書の習慣等、子どもとの関わり方について尋ねたところ、「お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる」では約8割が『あてはまる』と回答しており、親の方から尋ねなくても、子どもから自発的に勉強や成績について話をしている家庭が多いことがうかがえます。また、小学生では中学生と比べて「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」割合が高くなっています。どの項目も『あてはまる』が『あてはまらない』を上回っていますが、「お子さんに本や新聞を読むように勧めている」では『あてはまらない』が4割を超えていることから、SNS等の普及など急激に進むデジタル化が背景にあり、活字離れが進んでいることがうかがえます。



学校行事やPTA活動及び地域行事等への参加率については、小・中学生ともに「授業参観や運動会等の学校行事への参加」への参加率が最も高く、9割を超えています。また、「地域行事等への参加」の参加率が6割前後、小学生では「PTA活動や保護者会などへの参加」の参加率も約6割となっていますが、中学生では『参加していない』が『参加している』を上回っています。

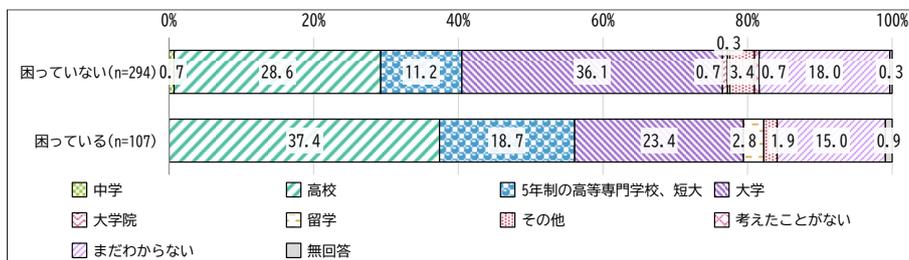


少子化や情報化が進展し、経済状況が変化する中で、人と人とのつながりや地域の絆が希薄化していることで、子育ての負担や責任が保護者に集中し、子育て中の保護者が孤立しやすくなる傾向があると考えられます。子どもが身近なところで安全に成長でき、多くの人と触れ合い、多様な価値観等を吸収していくためにも、地域活動の周知及び参加を促し、子どもや子育て世帯を地域で見守り・支える体制を整えることが必要です。

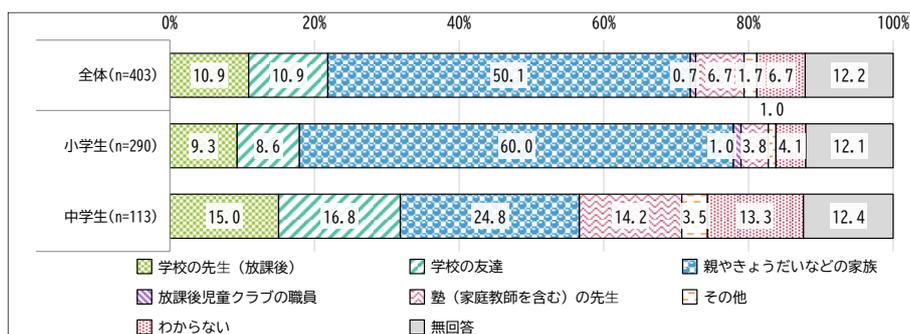
お子さんの進学及び学習状況について

進学については、小・中学生ともに3割前後が「高校」「大学」と回答しており、「経済的に困っている世帯」では「経済的に困っていない」世帯と比べて「大学」への進路希望が10ポイント以上低くなっています。

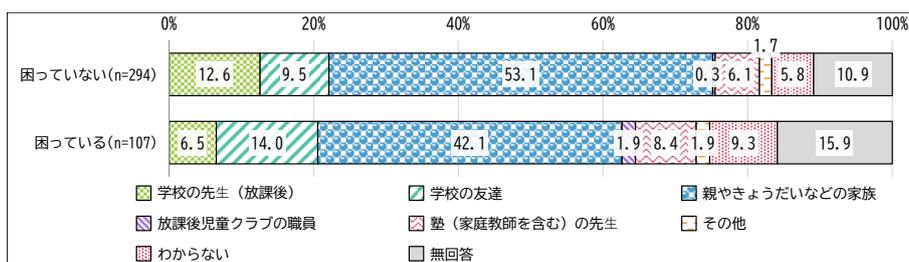
【進路希望×暮らしの状況】



学校の学習で分からないことを教えてもらう相手については、小・中学生ともに「親やきょうだいなどの家族」が最も高く、特に小学生では6割を超えています。また、中学生は小学生と比べて「塾（家庭教師を含む）の先生」が10ポイント以上高くなっています。加えて、「経済的に困っている」世帯では「経済的に困っていない」世帯と比べて「親やきょうだいなどの家族」が10ポイント以上低くなっています。



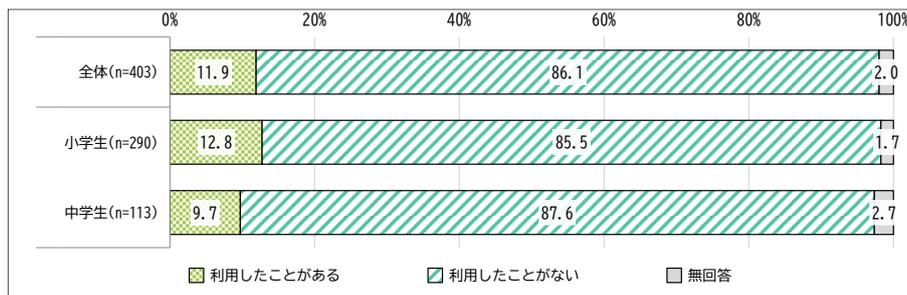
【教えてもらっている人×暮らしの状況】



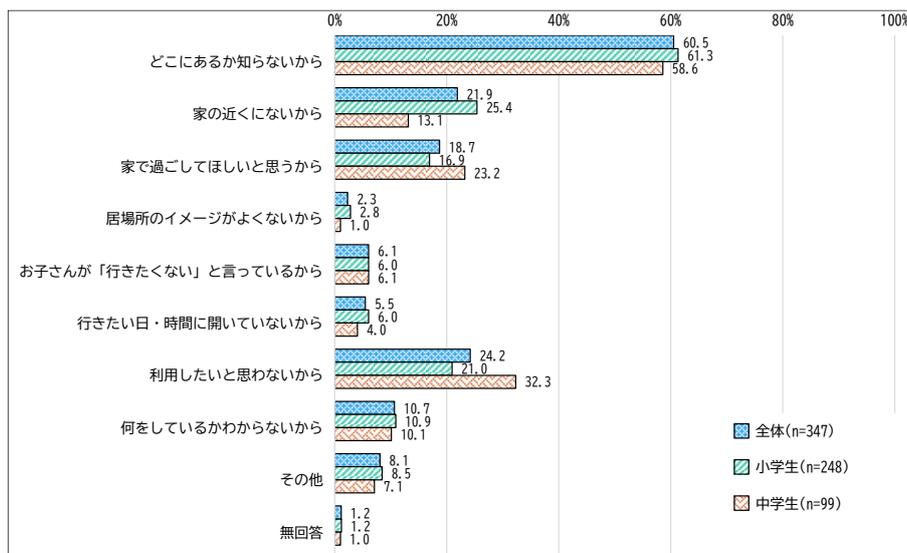
お子さんの放課後の居場所について

お子さんが放課後（部活動後）過ごす場所及び今後過ごしたい場所については、小・中学生ともに「自宅」が最も高くなっており、保護者からみても9割以上が「子どもが自分の家を居心地がいいと感じている」と回答しています。

「子どもの居場所」の利用経験については、小・中学生ともに「利用したことがない」が8割を超えており、利用率は1割前後となっています。「子どもの居場所」を利用しない理由については、小・中学生ともに6割前後が「どこにあるか知らないから」と回答しており、小学生は中学生と比べて「家の近くにないから」が高く、「利用したいと思わないから」が低くなっています。



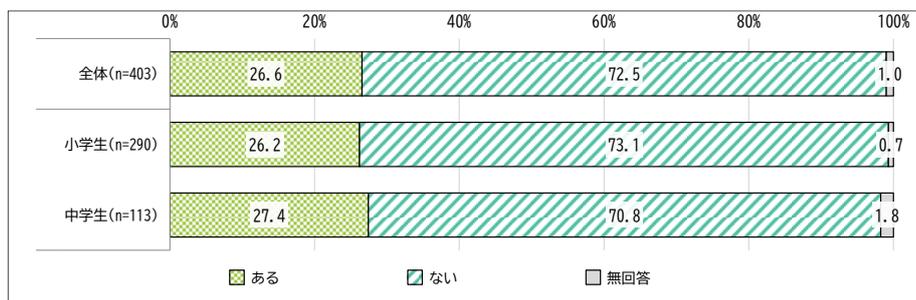
【子どもの居場所を利用しない理由】



自由記述でも、子どもたちが安心して遊べる場所や放課後に過ごせる居場所の必要性を訴える意見が多くみられ、特に共働き世帯では子どもが自宅で過ごすことが多くなることからネットや動画の視聴時間等が長くなるという声もあがっています。また、「何をしているかわからないから」という回答も1割あることから、内容や利用方法を含めた周知とともに、子ども達が気軽に安心して利用したくなるような環境整備が必要です。

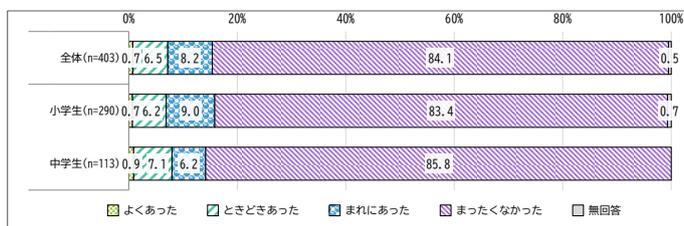
世帯の経済状況について

経済的な理由で子どもの学習意欲にこたえられなかった経験については、小・中学生ともに「ない」が7割を超えています。約3割は「ある」と回答しています。

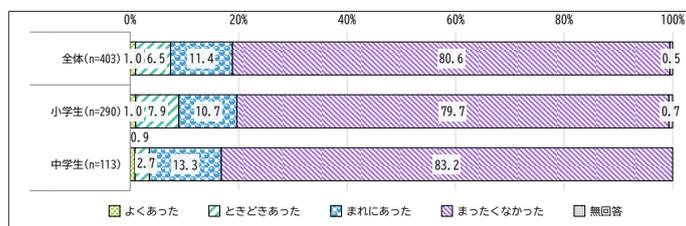


経済的な理由で食料品や衣服等が購入できなかった経験については、小・中学生ともに8割前後が「まったくなかった」と回答していますが、1割は『あった』と回答しています。

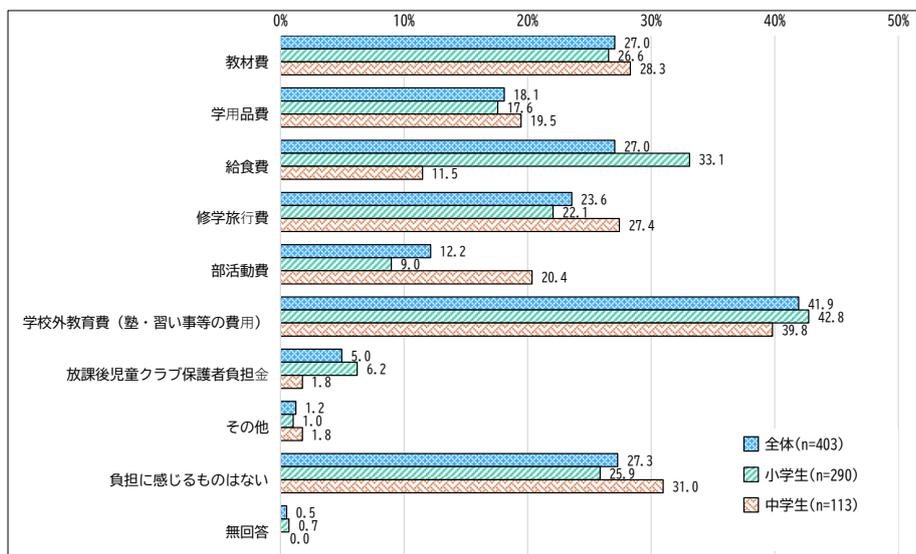
【食料品等】



【衣服等】

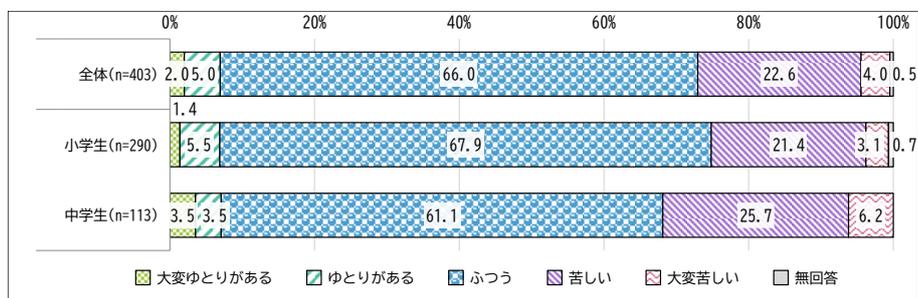


教育関連支出の負担感については、小・中学生ともに「学校外教育費（塾・習い事等の費用）」が最も高く、小学生では「給食費」が3割を超えており、中学生では約3割が「教材費」「修学旅行費」と回答しています。



世帯全体のおおよその年間収入（税込）については、小学生では「500～600万円未満」、中学生では「700～800万円未満」が最も高くなっています。

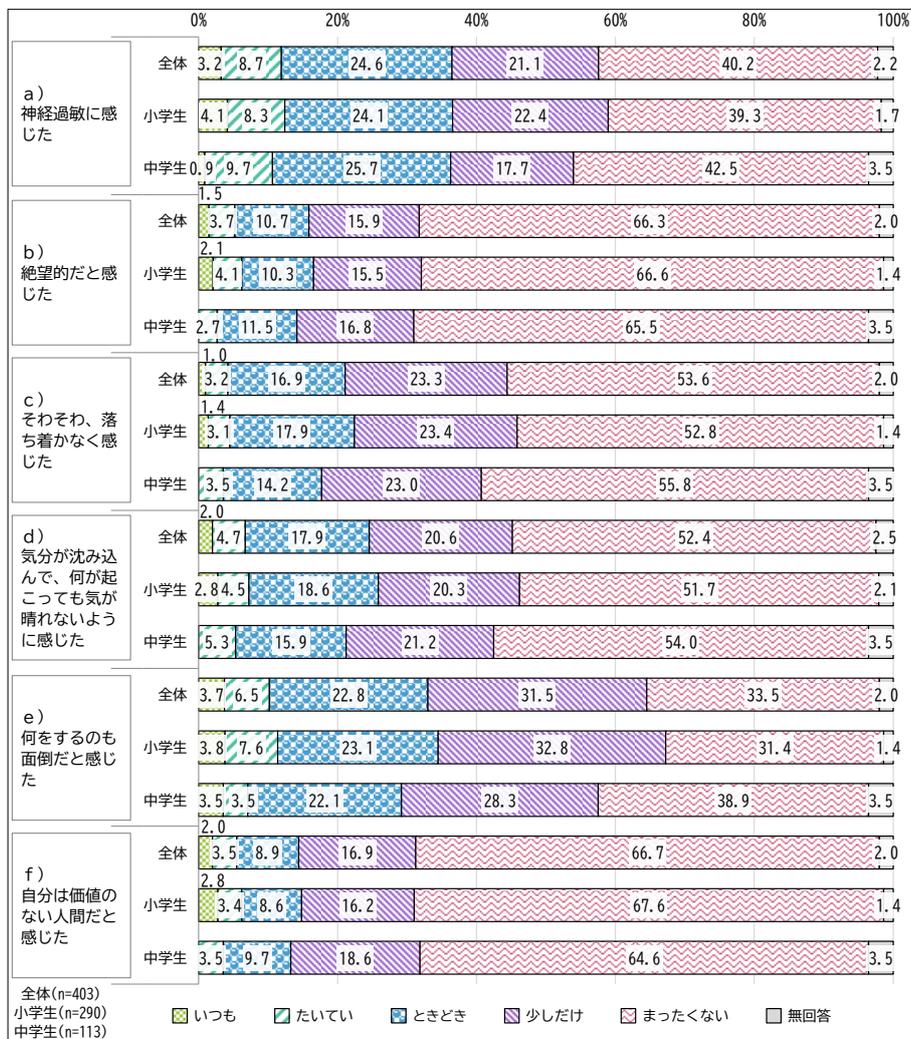
現在の暮らしの状況については、小・中学生ともに「ふつう」が最も高く6割を超えています。『ゆとりがある』は1割を切っており、小学生では2割、中学生では3割が『苦しい』と回答しています。



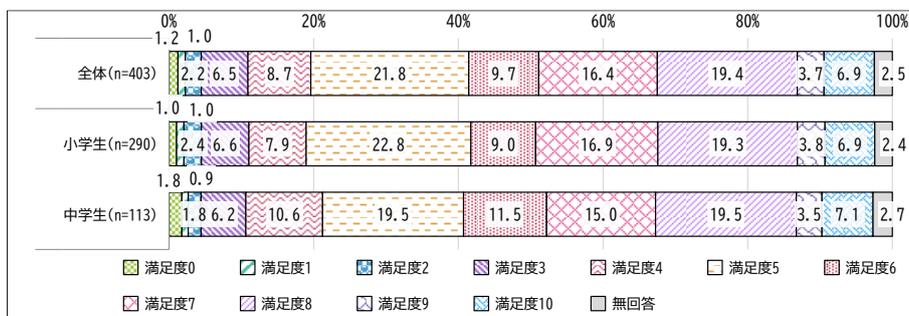
自由記述では町の取組に感謝しながらも、物価高による教育費の負担感、将来の進学に対する不安を訴える意見や経済的支援を求める意見が多く寄せられているため、町民のニーズを把握し、さらに支援策を拡充していく必要があります。

ふだんの生活と必要な支援について

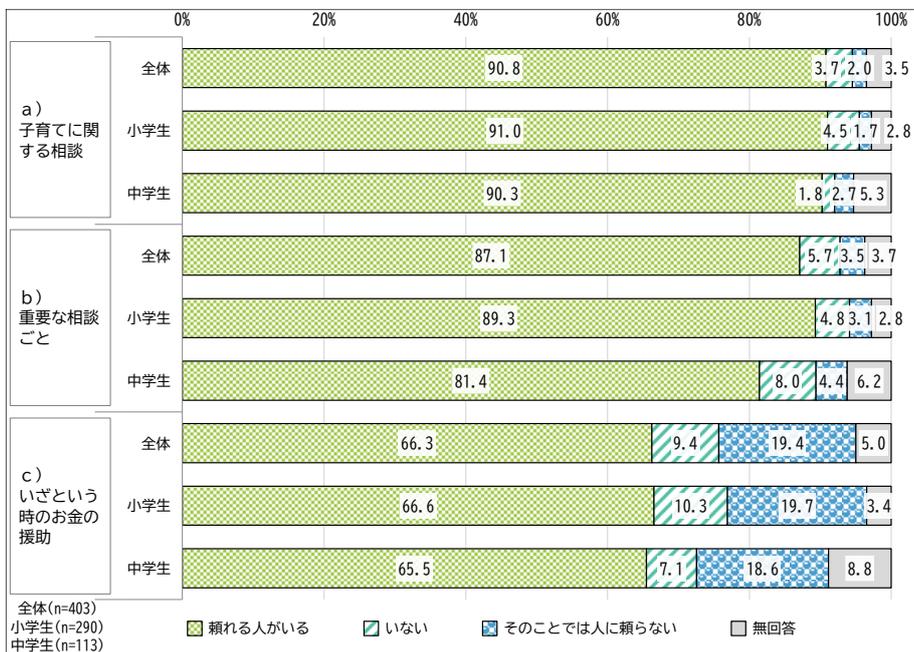
1か月間の自身の感情の状態について、小・中学生ともに「神経過敏に感じた」「何をするのも面倒だと感じた」では『ある』が5割を超えています。それ以外の「絶望的だと感じた」「落ち着かなく感じた」「気分が沈みがち」「自分は価値のない人間だと感じた」では「まったくない」が5割を超えています。また、最近の生活の満足度については、小・中学生ともに『満足度が高い』は1割台となっています。



【生活の満足度】

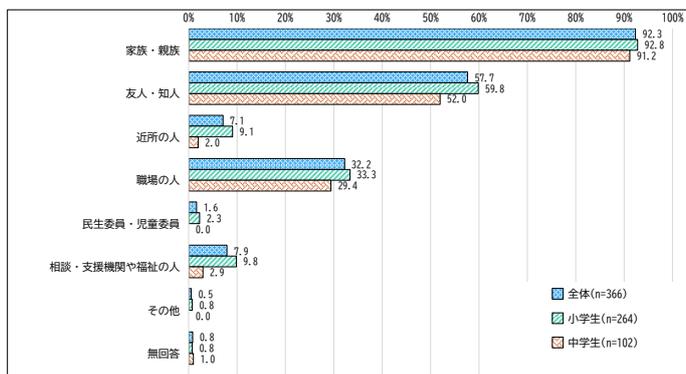


頼れる人の存在については、小・中学生ともに「子育てに関する相談」は9割、「重要な相談ごと」は8割が「頼れる人がいる」と回答しています。また、「いざという時のお金の援助」では「頼れる人がいる」が6割台と低くなっており、約3割は「いない+そのことでは人に頼らない」と回答しています。

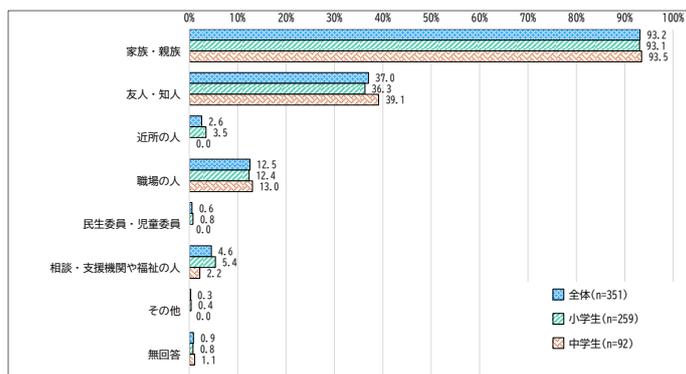


頼れる相手について、小・中学生ともにどの相談内容も「家族・親族」が最も高く9割を超えています。また、「子育てに関する相談」は友人・知人や職場の人、「重要な相談ごと」では友人・知人に相談する割合が3割を超えています。また、「いざという時のお金の援助」は家族以外に相談する割合がいずれも1割以下となっており、相談内容が深くなるにつれて、家族等身近な人以外に頼る割合が低くなっています。

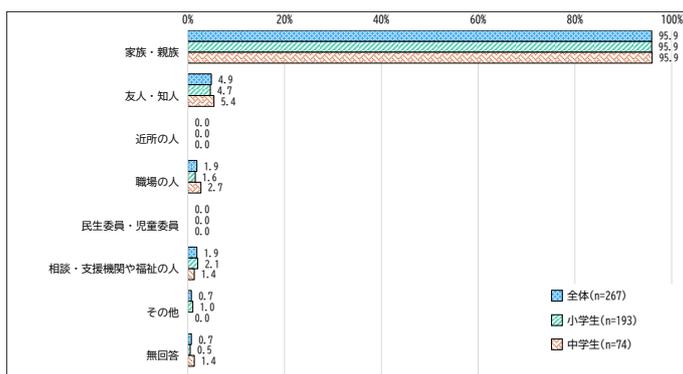
【子育てに関する相談】



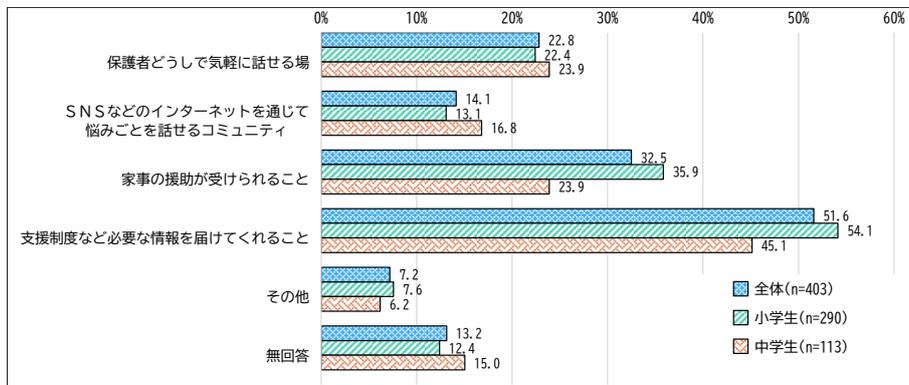
【重要な相談ごと】



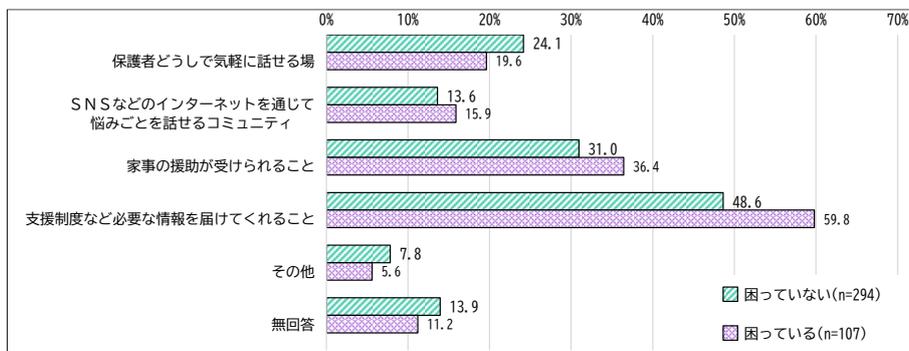
【いざという時のお金の援助】



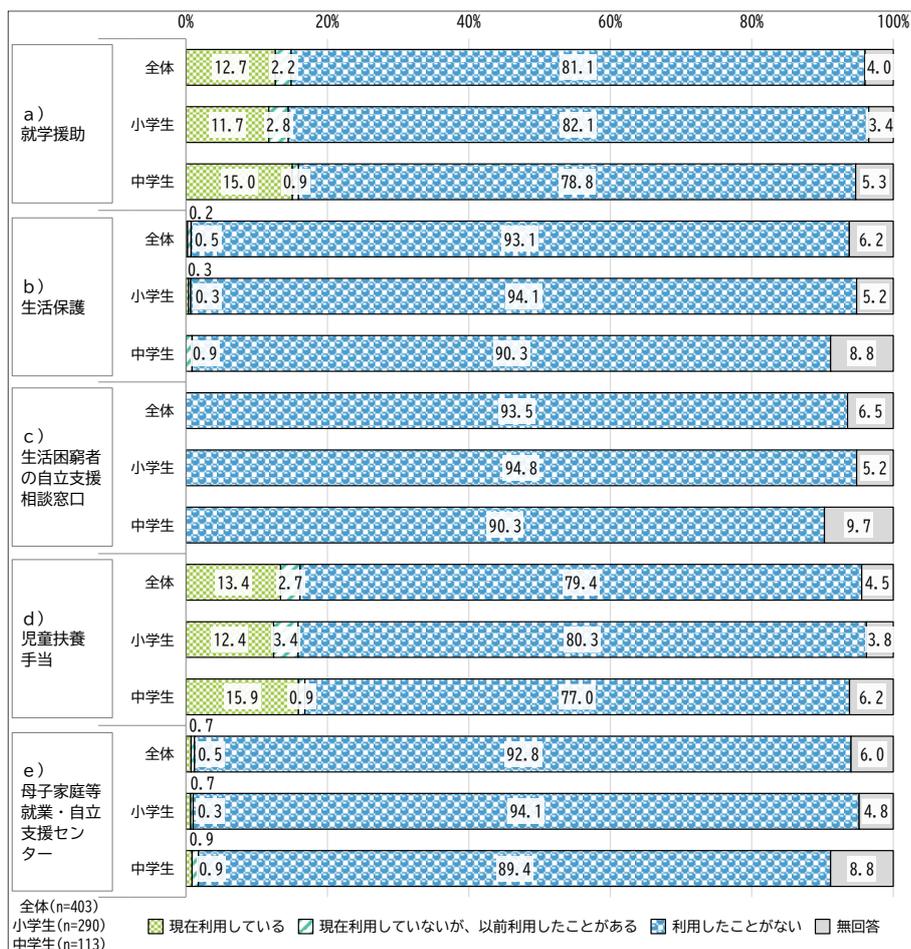
身近にあると良いと思うことについては、小・中学生ともに5割前後が「支援制度など必要な情報を届けてくれること」と回答しており、「保護者同士で気軽に話せる場」「家事の援助が受けられること」が2割を超えています。また、「経済的に困っている世帯」では「経済的に困っていない世帯」と比べて「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が10ポイント以上高くなっています。



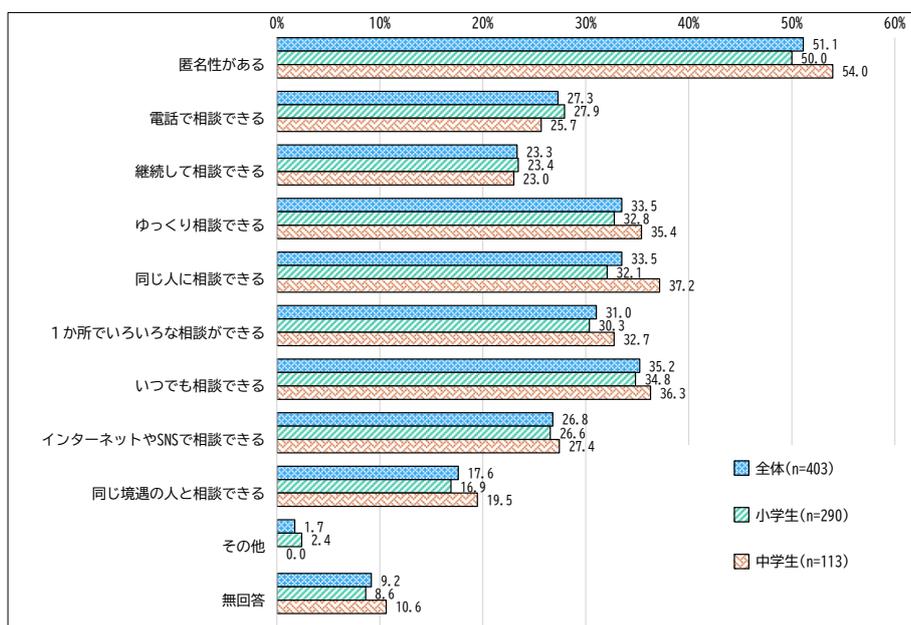
【身近にあると良いと思うこと×暮らしの状況】



各支援制度の利用状況については、小・中学生ともに「利用したことがない」が最も高く、7割を超えており、「就学援助」「児童扶養手当」は、「現在利用している+現在利用していないが、以前利用したことがある」が1割台と他の支援制度と比べて利用率が高くなっています。



町の相談窓口に望むこととして、小・中学生ともに5割が「匿名性がある」、3割が「ゆっくり相談できる」「同じ人に相談できる」「1か所でいろいろな相談ができる」「いつでも相談できる」と回答しています。



相談内容が漏れるのではないかという不安もあるせいか、身近な家族・友人以外への相談する割合が低くなっています。子育てに悩みを持つ保護者の孤立化を防ぐためにも、相談するというハードルを下げるための工夫、気軽に安心して相談できる支援体制（SNS 等での相談含む）の整備、関連機関との情報共有等、安心して子育てができる環境づくりと切れ目のない支援を行うことが必要です。

